

## 第 25 回グリーン購入大賞 審査結果発表

2024 年 11 月 27 日

グリーン購入ネットワーク（事務局：東京都千代田区 会長：梅田靖）では、「持続可能な調達」を通じて、グリーン市場の拡大に貢献した取り組みや SDGs の目標達成に寄与する取り組みを表彰する「第 25 回グリーン購入大賞」の受賞団体を以下のとおり決定いたしました。

なお、表彰式は 12 月 12 日（木）10 時より、コンgresクエア日本橋にて開催いたします。

大賞・環境大臣賞	SAGA COLLECTIVE 協同組合
大賞・経済産業大臣賞	株式会社エアーローゼット
大賞・農林水産大臣賞	築野グループ株式会社

### ■第 25 受賞団体一覧

賞	受賞団体（応募部門）	タイトル
大賞・環境大臣賞	SAGA COLLECTIVE 協同組合 （行政・民間団体部門）	循環と継承。佐賀の 10 業種 11 社がともに持続可能なものづくりの本質を追う
大賞・経済産業大臣賞	株式会社エアーローゼット （大企業部門）	脱炭素と衣服廃棄削減を実現する 普段着のファッションシェアリングサービス
大賞・農林水産大臣賞	築野グループ株式会社 （農林水産特別部門）	国内で発生する米ぬかと廃食用油の高度有効利用で サーキュラーエコノミーを実現
大賞	大日本印刷株式会社 （大企業部門）	「DNP 環境配慮パッケージング GREEN PACKAGING」 ー環境配慮パッケージングで 2023 年度約 19 万トンの CO <sub>2</sub> 排出量削減効果を達成ー
大賞	株式会社ワークスタジオ （中小企業部門）	美しく新しい繊維の資源循環・循環型繊維リサイクル 『PANECO®』
大賞	株式会社 wash-plus （中小企業部門）	洗剤を使わず人と地球にやさしいアレルギーフリーの洗濯 「wash+Technology」
大賞	足利市 （行政・民間団体部門）	「足利市グリーン購入調達方針」を基にした全庁的な取組
大賞	学校法人国本学園 国本小学校 （行政・民間団体部門）	KUNIMOTO Re-Project 2023 ～多くの人やモノを幸せに、 身近な人を笑顔にしたい～
大賞	竹本油脂株式会社 （農林水産特別部門）	ゴマ調達を通じたアフリカ産地における支援活動
優秀賞	ニチバン株式会社 （大企業部門）	つくる、使う、捨てる、まで。天然由来主原料の ゼロテープ®は、ず〜っとサステナブル
優秀賞	株式会社エナーバンク （中小企業部門）	環境と経済を両立。激変する電力市場に対応した再エネ 電力調達、脱炭素化を支援
優秀賞	中野製薬株式会社 （中小企業部門）	Z 世代・α 世代の顧客、美容師に向けてのナカノワックス を通じたグリーン市場の拡大
優秀賞	グリーンコープ生活協同組合連合会 （農林水産特別部門）	市民・地域と共に環境を守るグリーンコープ運動を 発展させ持続可能な社会を創っていく

## ■グリーン購入大賞

グリーン購入大賞は、環境や社会に配慮した製品やサービスを環境負荷低減と社会的責任の遂行に努める事業者から優先的に購入する「グリーン購入」の普及・拡大に取り組む団体を表彰する制度として、1998年に創設しました。

第25回グリーン購入大賞では、持続可能な調達（消費と生産）を通じたSDGsの目標達成、とりわけ、脱炭素社会やサーキュラーエコノミーの実現に寄与する取り組みを募集し、審査を行いました。また、特別部門では、第24回に引き続き、持続可能な農林水産業の実現に向けた取り組みを対象とした「農林水産特別部門」を設けました。

## ■応募部門

大企業部門、中小企業部門、行政・民間団体部門、農林水産特別部門

## ■審査方法・審査結果について

5月22日～7月31日に募集を行い、全国より応募のあった取り組みについて、1次審査（8月28日）、本審査（10月1日）を経て受賞団体を選定いたしました。

「大賞」は大企業部門：株式会社エアークローゼット、大日本印刷株式会社、中小企業部門：株式会社ワークスタジオ、株式会社 wash-plus、行政・民間団体部門：足利市、学校法人国本学園 国本小学校、SAGA COLLECTIVE 協同組合、農林水産特別部門：竹本油脂株式会社、築野グループ株式会社の9団体、優秀賞は、大企業部門：ニチバン株式会社、中小企業部門：株式会社エナーバンク、中野製薬株式会社、農林水産特別部門：グリーンコープ生活協同組合連合会の4団体に決定致しました。

また、「環境大臣賞」はSAGA COLLECTIVE 協同組合、「経済産業大臣賞」は株式会社エアークローゼット、「農林水産大臣賞」は築野グループ株式会社への授与が決まりました。

## ■審査総評：審査委員長 梅田 靖 GPN 会長（東京大学大学院教授）

観測史上最高気温を記録し続け、地球沸騰化と称される今日。世界の温室効果ガスの排出量も過去最多を更新しており、気候変動による極端な気象現象が、私たちの生活やビジネスに暗い影を落とし始めています。私たちは、次の世代、次の100年にどう継承するかが問われています。このような社会情勢の中、私たちに求められるのは、環境保全と経済成長をデカップリングさせ、気候変動をはじめとする環境問題を認知でとどめるのではなく、ビジネスや生活の中でグリーン購入や持続可能な調達の実践がまさに求められているものと言えます。

グリーン購入大賞は、持続可能な調達（消費と生産）を通じて、温室効果ガス削減等の環境保全や社会課題の解決につながる優秀事例を表彰し、普及させることを目指しています。25回目となる今年度も、SDGsの目標達成に寄与する消費と生産の取り組みを募集しました。また、持続可能性に配慮した食料システムの維持・発展に寄与する取り組みの周知を図るために、昨年度に続き「農林水産特別部門」を設け、全体で13団体を表彰しました。

今年度は、カーボンニュートラルの取り組みをはじめ、脱炭素を加速させたり、再エネ電力の導入を促したりする事例の応募が多く見られました。持続可能な原料として米ぬかに着目したサーキュラーエコノミーの取り組みや、資源循環を促し、購入・所有ではなく、シェアリングを促す取り組みや再資源化する事例も多く、とりわけ、衣類や繊維に関する応募が多かったことも今年の特徴の一つでした。環境面への配慮だけでなく社会課題の解決や人の健康への配慮につながる取り組みは今年度も応募があり、ごまの調達を通じた生産地における持続可能な生産の支援活動やアレルゲンフリーの洗濯サービスの提供は、これまでの受賞事例と比べても、取り組みの多様さを示すことにつながりました。加えて、行政のグリーン購入の推進に向けた調達方針の策定事例や、探求学習を通じた子どもたちのグリーン購入の実践など、全国的に、そして、次世代へつなげる意欲的な事例を表彰することができました。

企業・地方自治体・団体の方々には、受賞事例の成果のみならず、成果に至るプロセスや関係者との連携の形等のエッセンスを掴み取っていただき、これらの受賞事例に倣い、自らのフィールドでの実践に活かしていただきたいと思います。

## ■本審査委員（敬称略）

委員長：	梅田 靖	東京大学大学院 工学系研究科人工物工学研究センター 教授、GPN 会長
委員：	伊坪 徳宏	早稲田大学 創造理工学部 環境資源工学科 教授、GPN 代表理事
	奥 真美	東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授、GPN アドバイザー
	石川 雅紀	叡啓大学 特任教授、神戸大学 名誉教授、GPN アドバイザー
	近藤 康之	早稲田大学 政治経済学術院 教授
	栗栖 聖	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授、GPN アドバイザー
	平尾 禎秀	環境省 大臣官房環境経済課長
	中原 廣道	経済産業省 GX グループ 環境政策課長
	坂下 誠	農林水産省 大臣官房みどりの食料システム戦略グループ地球環境対策室長
	池田 三知子	日本経済団体連合会 環境エネルギー本部長
	竹ヶ原 啓介	政策研究大学院大学 教授
	崎長 敬志	読売新聞東京本社 編集局生活部 次長
	江口 一	毎日新聞社 くらし科学環境部 部長
	田中 太郎	日経 BP 日経 ESG 経営フォーラム事業部シニアプロデューサー

## ■表彰式について

【表彰式】2024年12月12日（木）10:00～12:00

会場：コングレスクエア日本橋

（〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-3-13 東京建物日本橋ビル 2 階）

※表彰式は、受賞団体、メディア関係者のみで開催いたします。

※当日の取材を希望される場合は、GPN 事務局（担当：竹内）までご連絡ください。

## ■主催：グリーン購入ネットワーク（GPN）

■後援：環境省、経済産業省、農林水産省、消費者庁、日本経済団体連合会、読売新聞社、毎日新聞社、日刊工業新聞社、日経 BP、東洋経済新報社、株式会社共同通信社、環境新聞社、Sustainable Brands Japan(SB-J)

## ■グリーン購入ネットワーク（GPN）

グリーン購入を促進するために、1996年2月に設立された、企業・行政・民間団体等による緩やかなネットワーク組織。地方公共団体や企業等の組織購入者へグリーン購入の普及啓発を行うと共に、製品やサービスを購入する際に環境面で考慮すべき重要な観点をリストアップした商品分野ごとの購入ガイドラインの策定、約13,000点の商品の環境情報を掲載したデータベース（エコ商品ねっと）の運営等を行っています。

また、2018年度からは、パリ協定やSDGs等の世界的動向をふまえ、活動の領域をグリーン購入から持続可能な調達に拡大し、持続可能な調達方針の策定支援や方針に基づいたサプライヤー調査・研修等の事業を推進しています。

2024年3月時点の会員団体数は1,309団体（企業1,069、行政104、民間団体136）です。

ホームページ：<https://www.gpn.jp/>

## 「大賞・大臣賞」 受賞団体の取り組み概要

### ○大賞・環境大臣賞 SAGA COLLECTIVE 協同組合（行政・民間団体部門） 循環と継承。佐賀の 10 業種 11 社がともに持続可能なものづくりの本質を追う

#### 【取り組み概要】

SAGA COLLECTIVE 協同組合は、佐賀県の伝統産業 10 業種 11 社の製造業で構成されています。何世代にもわたり自然の恵みにより成り立ってきた事業活動が気候変動の影響を受けていることを踏まえ、将来にわたり事業を継承させていくために、地球・社会・人にやさしい「エシカル」を心構えに持続可能なものづくりを目指しています。

2021 年度より、各社はエネルギー使用量の把握や、照明の LED 化、再生可能エネルギーへの転換等による CO<sub>2</sub> 排出量の削減を行い、削減しきれない残余分を地元の自然環境保全プロジェクトを通じた J-クレジットを購入することでオフセットを実行しています。2023 年度の SAGA COLLECTIVE 全体の CO<sub>2</sub> 排出量（スコープ 1、2）は、取り組みを開始した 2021 年度に対し 18.7%削減。11 社のうち 6 社はスコープ 1、2 の全量をカーボン・オフセットし、カーボンニュートラルを達成しており、ものづくりの持続可能性が高まるよう行動を続けています。

#### 【評価ポイント】

地域の多業種の中小企業が結束し、持続可能な事業活動のために、CO<sub>2</sub> 排出量の把握と削減、カーボン・オフセットのノウハウを共有し、カーボンニュートラル商品の販路拡大に積極的に取り組み成果をあげていることは、地域のグリーン市場の拡大に繋がる取り組みとして高く評価できる。また、業種、業界の垣根を越えて、自然の恵みを生かしたモノづくりをいかにサステナブルなものに転換していくか、この枠組みに新たな異業種が更に参画されることを期待する。

### ○大賞・経済産業大臣賞 株式会社エアークローゼット（大企業部門） 脱炭素と衣服廃棄削減を実現する普段着のファッションシェアリングサービス

#### 【取り組み概要】

株式会社エアークローゼットは、ファッション産業において大量生産・大量消費・大量廃棄により大きな環境負荷が発生していることを踏まえ、日本初の女性向けの普段着のファッションシェアリングサービス『airCloset』を運営しています。

『airCloset』は、スタイリストが選んだコーディネートを全国のお客様にレンタルで提供し、実際に着用して気に入ったものについてはそのまま購入することができます。このモデルは unnecessary な買い物や家庭での廃棄の抑制につながっています。さらに、シェアリングサービスに特化した循環型の物流システムを構築することにより、効率的な運用を進めています。

月額会員数は、2024 年 6 月時点で 3 万 7 千人を超えています。本事業で扱う全てのお洋服はリユース・リセール・リサイクルの対象であることから、事業に関わる衣服廃棄ゼロを実現しています。

#### 【評価ポイント】

普段着のファッションシェアリングサービスとして国内初・国内最大の実績を有しており、ファッションロス削減に大きく貢献する活動として高く評価できる。衣服は購入するもの、という「当たり前」が染みついている習慣を変革する取り組みであり、消費者としてはファッションという楽しみから入り、結果的にグリーン購入を促すことにつながっている。日本におけるサーキュラーエコノミー（資源循環経済）の実現にも資する取組であり、衣服の廃棄や環境負荷を削減するアプローチとして利用者の拡大を期待する。

## ○大賞・農林水産大臣賞 築野グループ株式会社（農林水産特別部門） 国内で発生する米ぬかと廃食用油の高度有効利用でサーキュラーエコノミーを実現

### 【取り組み概要】

築野グループ株式会社は、国内で発生する米ぬかと廃食用油を原料として有効利用できる用途を、こめ油、機能性素材、工業用油脂の分野に広げるとともに、それらの製品の市場を拡大することによりサーキュラーエコノミーの実現に貢献しています。また、国内のバイオマス資源を使用することにより、CO<sub>2</sub>排出削減など環境負荷の低減に結びつけています。

国産原料で製造できるこめ油は、米ぬか・米胚芽を原料として米原油を抽出し、精製工程を経て良質の製品を製造しています。また、機能性素材は、成分の特徴に応じて化粧品や医薬品、飼料などの原料に使用し製品を開発することで、石油由来の製品や輸入への依存度が高い製品の代替として活用しています。工業用油脂では、こめ油をつくる過程で発生する非可食部の脂肪酸を利用し、インキや接着剤、潤滑油の原料などに使用する工業用の油を製造しています。

### 【評価ポイント】

貴重な国産資源である米・米ぬかの有効活用に長年取り組み、こめ油、機能性素材、工業油脂等新たな製品の創出、及び、廃食油のリサイクル事業化や多様な製品の研究開発で成果をあげていること、消費拡大に向けた啓発の取り組みは高く評価できる。また、精米工場から安定的な米ぬかの調達を実践しているほか、環境負荷低減と経済性を両立しておりサーキュラーエコノミーを具体化する優秀事例といえる。

## 「大賞」 受賞団体の取り組み概要

### ○大賞 大日本印刷株式会社（大企業部門）

#### 「DNP 環境配慮パッケージング GREEN PACKAGING」

—環境配慮パッケージングで 2023 年度約 19 万トンの CO<sub>2</sub>排出量削減効果を達成—

##### 【取り組み概要】

大日本印刷株式会社は、脱炭素社会の実現に向けた活動の一環として、3R+リニューアブルを基本に CO<sub>2</sub>削減、資源循環、自然環境の保全に寄与するパッケージ製品群「DNP 環境配慮パッケージング GREEN PACKAGING®」を提供し、顧客企業等のサプライチェーン全体の CO<sub>2</sub>排出量（スコープ 3）削減に貢献することを目指しています。また、包装関連製品の売上における GREEN PACKAGING の比率を 2030 年度に 100%にするという目標を掲げ、環境配慮設計に関する指針・指標を設定しています。

パッケージの開発においては、植物由来のバイオマスプラスチックや森林認証紙の採用、リサイクルに適した単一素材、リサイクル材の活用等に取り組んでいます。また、LCA により CO<sub>2</sub>排出削減効果を定量評価しており、2023 年度は GREEN PACKAGING 製品のライフサイクル全体における削減効果が約 19 万トンに達しました。

##### 【評価ポイント】

容器包装の環境負荷削減に向けて、早い段階からライフサイクルの視点を取り入れ、定量的な効果の把握に注力し、GREEN PACKAGING として成果をあげていることは大いに評価できる。あらゆる商品に必須といえるパッケージを環境配慮素材にすることで消費者が自然とグリーンな商品を手にすることができることは、規模的にも社会に与えるインパクトは大きく、今後更なる発展が期待できる。

### ○大賞 株式会社ワークスタジオ（中小企業部門）

#### 美しくて新しい繊維の資源循環・循環型繊維リサイクル『PANECO®』

##### 【取り組み概要】

株式会社ワークスタジオは、繊維の資源循環によりファッション産業および繊維産業のサーキュラーエコノミーの確立に貢献するために、深刻化する衣類廃棄の問題に対応し、繊維廃棄物を回収し「PANECO® board」に再資源化する取り組みを進めています。

「PANECO® board」は 100%廃棄衣類を原料としており、木質ボードの代替素材として活用されています。当社では、街にはボードをつくるための「木」はないが、廃棄予定の「衣類」はたくさんあることから、衣類等の繊維を「都市森林®」と定義し、その衣類を再資源化しています。そして、デザイン性を重視し、従来の再生素材の概念からの脱却を目指しています。使用済みとなった製品は、回収して再び「PANECO® board」に再生することが可能です。2021 年度以降、再資源化に努め、廃棄衣類の再資源化量は累計で約 100t に達しています。

##### 【評価ポイント】

従来廃棄されていた繊維廃棄物を回収し、意匠性資材にリサイクルする取り組みとして、資源循環プロセスを構築し、繊維廃棄物の課題解決につながる新たな手法として期待できる。また、リサイクル技術の開発に加えてデザイン性に優れた製品を作ることによって付加価値を生み出し、再資源化の実績も 2021 年発売以来毎年増加している点は大いに評価できる。

## ○大賞 株式会社 wash-plus (中小企業部門)

### 洗剤を使わず人と地球にやさしいアレルゲンフリーの洗濯「wash+Technology」

#### 【取り組み概要】

株式会社 wash-plus は、洗剤を使用せず成分の 99.9%が水の洗濯専用アルカリイオン電解水で汚れを落とす洗浄システムを開発。「wash+ Technology」としてブランド化し、コインランドリーおよびホテルランドリーの事業を展開し、アレルゲンフリーで水資源を保全する、人と地球にやさしい洗濯を実現しています。

アルカリイオン電解水は無色・無臭でアレルゲンや合成化学物質を含んでおらず、洗濯水・すすぎ水の排水による水質汚染を軽減することができます。通常の洗濯方式に比べ約 70%の節水を実現していますが、さらに、水を循環させて利用する排水レスランドリーの開発・導入にも取り組んでいます。

2024年9月現在、全国でコインランドリー48店舗、ホテルランドリー31カ所を展開しており、特に離島やリゾート地の施設等において地域の環境負荷低減に寄与しています。

#### 【評価ポイント】

アルカリイオン電解水を利用することによって、洗剤を使用せず、水質汚染を防ぎ、環境に配慮した持続可能な洗濯方法として大いに評価できる。また、自然環境保全が求められる離島やリゾート地のニーズに応えられる製品であり、節水効果が期待できることに加え、化学物質過敏症等への対応といった、人の健康につながる製品であることは、今後の更なる普及が期待できる。

## ○大賞 足利市 (行政・民間団体部門)

### 「足利市グリーン購入調達方針」を基にした全庁的な取組

#### 【取り組み概要】

足利市は需要面から循環型社会の形成を推進することを目的として、「足利市グリーン購入調達方針」に基づき 2003 年から全庁的な取り組みを推進してきました。2020 年度には調達担当者の業務の円滑化や正確な実績集計に向け、他団体の事例を参考に、環境ラベルを活用した調達方針に改訂するとともに、独自の実績集計シートによる集計方法に改善をしました。

また、グリーン購入法の特定調達品目・基準に加えて、足利市独自の調達品目・基準の追加設定、調達担当者向けのグリーン購入マニュアルの作成や研修会の実施等により、取り組みの充実と継続性の確保を図っています。こうした対応により市内の出先機関や小中学校を含む全庁における意識の向上が進み、グリーン購入目標の達成率は大半の品目で 95%以上に達しています。

#### 【評価ポイント】

環境ラベルを活用した調達方針への改訂や調達実績の集計方法の見直し、職員向けマニュアルの作成、独自品目・基準の設定等により、円滑なグリーン購入の推進に繋げ、グリーン購入の取り組み率が向上した事例として大いに評価できる。従来の課題を整理し、様々な工夫により職員の負担軽減に繋げている点は、他自治体・地域への波及が期待できる。

## ○大賞 学校法人国本学園 国本小学校（行政・民間団体部門）

### KUNIMOTO Re-Project 2023 ～多くの人やモノを幸せに、身近な人を笑顔にしたい～

#### 【取り組み概要】

学校法人国本学園 国本小学校は、持続可能な社会を担う人材の育成を目指し、探求学習に加え、子どもたちの発案により「自分たちの取り組みを通して、多くの人やモノを幸せに、身近な人を笑顔にする」を目標とするプロジェクトを軸に課題解決型学習に力を入れています。

この「KUNIMOTO Re-Project 2023」では、6社の企業協力を得て、同校を回収拠点として子ども服、古本、プラスチック製の文房具、飲料容器など、使用済みとなった各社の製品や関連物品等を、関係者や地域住民から集め、企業に返す資源循環に取り組みました。プロジェクトを通じて、子どもたちはグリーン購入やサーキュラーエコノミーについての理解を深めるとともに、学園だけではなく、地域や企業など多くの人々の関わりによって、学びを深め、自発的に行動できる子どもたちを育成しています。

#### 【評価ポイント】

座学や与えられた研修ではなく、小学生自ら考えたプロジェクトを実行する本活動はサステナブル人材を育てる優れた取り組みであり、大いに評価できる。また、次世代育成の一環として、初等教育段階で、グリーン購入やサーキュラーエコノミーの概念を学び、能動的な行動を促す機会を与える事は効果的であり、今後の更なる発展を期待する。

## ○大賞 竹本油脂株式会社（農林水産特別部門）

### ゴマ調達を通じたアフリカ産地における支援活動

#### 【取り組み概要】

近年、美味しさと健康機能の高さから、ゴマの需要が向上する一方で、99%が輸入に依存しています。竹本油脂株式会社は、ゴマが持続可能で安定的に生産され調達できるよう、アフリカの産地において、農業の側面だけでなく地域の生活環境の向上につながる支援活動を行っています。タンザニアでは、3基の井戸を掘削し、生活用水へのアクセスの向上につなげています。また、土づくりから施肥、害虫・病気の防除などの営農指導を行っており、農家からは収量や収入が増加したとの評価を得ています。マラウイでは9基の井戸を掘削しており、今後約3,000の農家で構成される農業協同組合を組織化し、ゴマ栽培技術の普及を進める計画です。さらに、地域の医療施設への医療機器や救急車の提供などの支援も行っています。

#### 【評価ポイント】

持続可能で安定したゴマ調達の実現に向けて、海外のゴマ生産地の現地視察を重ね、生産農家の生の声を聴き、現地のコミュニティと共に生産地が求めている支援を実施していること、更には、営農指導も重視していることは大いに評価できる。これらの活動は、収穫量向上と農家の収入増に貢献しており、農家の自立支援に繋がっているため、更なる発展が期待できる。



## 「優秀賞」 受賞団体の取り組み概要

### ○優秀賞 ニチバン株式会社（大企業部門）

つくる、使う、捨てる、まで。天然由来主原料のセロテープ®は、ず〜っとサステナブル

#### 【取り組み概要】

ニチバン株式会社は1948年以来、植物を主原料としたセロテープ®を生産しています。このセロテープ®は、原材料の植物が成長して製品化され、使用後に廃棄・焼却されるまでのサイクルがカーボンニュートラルに貢献しています。また、この取り組みを「セロテープ®で SDGs に貢献〜Small Action For the future〜」として訴求し、お客様にも参加を促しています。さらに、使用済み粘着テープの巻心の回収、再資源化を進める「ニチバン巻心 ECO プロジェクト」を2010年から実施しています。これまでに約575万個、約75tの巻心を回収し事業者を通じて段ボールに再生するとともに、収益をマングローブの植林活動などに寄付するほか、小学校への出前授業により、資源循環などに関する環境教育を実施しています。

#### 【評価ポイント】

天然由来主原料のセロテープ®の優れた環境性能に加え、100%再エネ化や2010年より継続的に実施されている「ニチバン巻心 ECO プロジェクト」の活動は、製品の環境価値向上に繋がっており、評価できる。また次世代育成にも積極的に参画し、グリーン購入意識の醸成に貢献している。

### ○優秀賞 株式会社エナーバンク（中小企業部門）

環境と経済を両立。激変する電力市場に対応した再エネ電力調達、脱炭素化を支援

#### 【取り組み概要】

株式会社エナーバンクは、電力市場における環境と経済の両立に向け、行政機関や企業など需要者の視点に立ち、エネルギーの調達において脱炭素化を支援するプラットフォームの運営を通じてソリューションを提供しています。

主にはエネルギー市場や取り組み事例などの情報提供、電力需要者が契約する小売電気事業者をリバースオークション（競り下げ）方式により選定する仕組み、非化石証書やJ-クレジット、グリーン電力証書などの環境価値の提供、太陽光発電設備の導入方式の比較およびサプライヤーの比較選定等のサービスを提供しています。これらにより、異なる料金メニューや異なる導入手法においても公平公正に競争可能な環境を提供することを実現し、再生可能エネルギーの導入や電力コストの低減に寄与しています。

#### 【評価ポイント】

複雑な仕組みとなっている国内の電気料金削減と脱炭素化の両立を目指したサービスであり、官民のニーズに沿って、確実に成果を出していることは評価できる。また、行政を中心とした共同購入を支援する仕組みは、今後の更なる再エネ電力の調達を後押しする仕組みであり、拡大が期待できる。

## ○優秀賞 中野製薬株式会社（中小企業部門）

### Z世代・α世代の顧客、美容師に向けてのナカノワックスを通じたグリーン市場の拡大

#### 【取り組み概要】

中野製薬株式会社は、CO<sub>2</sub>削減の取り組みの一環として、Z世代を中心に支持されているヘアスタイリング料「ナカノ スタイリング タント」11 アイテムを対象に、日本国内の頭髮化粧品業界で初めて、カーボンフットプリント（CFP）を算出し情報を開示しました。若年層を中心とする生活者や美容師に向けてグリーン購入の選択肢を提案しています。また、製品の化粧箱・出荷用段ボール箱などへの環境配慮型認証紙の採用、容器・包装のプラスチック使用量の削減、非生産系拠点における使用電力の100%再生エネルギー化等、様々な取り組みにより環境負荷の低減に努めるとともに、環境への配慮を通じてステークホルダーからのさらなる信頼醸成を図ります。

#### 【評価ポイント】

環境配慮の取り組みが発展途上である商品群、業種において、いち早く CFP の算定、開示に取り組み、加えて、パッケージ等の環境配慮、工場の省エネ化等、総合的に取り組んでいることは評価できる。今後、美容業界全体への波及や理容室、美容室との連携展開等、市場をリードすることを期待する。

## ○優秀賞 グリーンコープ生活協同組合連合会（農林水産特別部門）

### 市民・地域と共に環境を守るグリーンコープ運動を発展させ持続可能な社会を創っていく

#### 【取り組み概要】

『グリーンコープ』は、設立当初より、「生命（いのち）」、「食べもの」、「環境と農業」を守ることを根幹とするグリーンコープ運動を実践してきました。そして、「2027年カーボンニュートラルの実現」の宣言に伴い、この運動をさらに前進させ、2027年までに事業活動におけるスコープ1・2のCO<sub>2</sub>排出量12,602トン（当会で算出）をゼロにすることを目標に取り組みを進めています。

国産の食材の選択によりCO<sub>2</sub>排出削減と国内の農業を守ることを目的とするフードマイレージ運動では、CO<sub>2</sub>削減量をポコという単位（1ポコ＝100g・CO<sub>2</sub>）で請求明細書に記載し、認識向上を図っています。さらに、配送車のEV車両への転換や事業所における太陽光発電設備の導入等、広範な取り組みを進めています。

#### 【評価ポイント】

グリーンコープ運動を発展させ、フードマイレージの提示や削減、4Rの推進等、さまざまな取り組みを網羅的に展開し着実な成果を挙げられている点は評価できる。また、長年にわたり、暮らしに直結するグリーン購入（消費と生産）を通じて環境を守る活動を展開されており、今後の更なる拡大を期待する。